

優しさの理由探し

僕がマーシャル諸島を初めて訪れたのは1998年、まだ新聞社の写真記者として働いている頃の事だ。あれからすでに8年の歳月が流れたが、今でも毎年のようにこの海に通っている。マーシャル政府観光局が行っている、29の環礁を毎年1環礁ずつ撮影して行くという途方も無いフォトプロジェクトのメインカメラマンとして働いた事がきっかけでもあるが、ただそれだけの理由ではなかった。

この国には、どうやら自分の体内時計に合ったペースの時間の流れ方があるような気がするのだ。7年間、急速な発展をするわけでもなく、同じ環礁だけの国、モルジブのように、高級リゾートが環礁の多くの島に建ち並ぶわけでもない。何より、この海の優しさが、自分にはこの上なく居心地が良いのだ。

今までに首都のあるマジュロ環礁の他に、アルノ、ミリ、ジャルト、ピキニ、リキザップ、エニューエトックなどの環礁を訪れたのだが、どの環礁に行っても、海に対して何とも言えぬ優しさを感じていた。

モルジブとの違いは何だろう？そうずっと考えていたのだが、最近、何となく気付いたのは、環礁のっ

かっている島の多さの違いなのかもしれない。モルジブは、環礁の中に島が多く点在し、環礁自体は浅いリーフになっている場所が多いように思う。それに比べて、マーシャルの環礁は、ラグーンにはほとんど島が無く、環礁の上に島々が点在している。中には数十キロも延々と細長く続いている島もある。チャンネルもモルジブに比べて少ないような気がする。要するに、本当に外洋から閉ざされているという印象が強いのだ。

だから、外洋のダイナミックさに比べて、ラグーンの穏やかさが際立つのかもかもしれない。多くのダイバーが外洋のダイビングを好む。透明度も高いし、サンゴも美しい。カレントに乗ったドリフトダイビングも楽しいし、それに大物との意外な遭遇の期待もある。しかし、僕はラグーンの中、カレントもほとんど感じない浅い砂地のリーフで、サンゴたちに囲まれてぼ～っとしているのが好きなのだ。太陽が海中に降り注ぎ、光合成をする元気なサンゴたちから安らぎのエネルギーを分け与えてもらっているような気がする。そしてそこに住む小さな魚たちの健気に生きる姿に、また静かに感動してしまうのだ。

海水の中がこれほど安らげる空間だと感じられるようになったのは、多分この海に出会ってからの事だ

**Marshall
islands**

マジュロ環礁カリン島のビーチ

母親の羊水のような優しさを持つ海

マーシャル諸島

www.web-lue.com

Web-lue 2005. Summer

 **Information Link**  情報HPへジャンプ
<http://www.wtp.co.jp/renewal/majuro/index.htm>

©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます 2



空から見たマジュロ環礁の中心地



壁のように直進的な移動を見せるギンガメアジ

Marshall islands MAJURO Atoll

遙かなる楽園マーシャルへの入口 マジュロ環礁

突如出現するツムブリの群れは、大物の出現を感じさせる。写真(左)外洋のドロップオフに群れるエバンスタンティアスの群れ(写真右)



首都であり、マーシャルの玄関口でもあるマジュロ環礁。毎年、必ず1度はこの環礁に戻って来る。29ある環礁の中でも、それほど大きな環礁では無いのだが、マーシャルの人口の半分の約3万人がここで生活している。マーシャルでは、環礁ごとにそれぞれ違った姿の神様が存在しているという。マジュロの神様は女性の姿をしているそうだ。だから、この環礁にはその女性の神様から生まれた多くの子孫が生活しているのだとも聞いた。

この環礁には、外洋から大きな船が入り出できるチャンネルは実質上、一つしかない。環礁の北側中央に開くそのチャンネルはカロリンパスと呼ばれる。チャネ

ルの東側にある島の名前から由来するこのパスを横切るように、マジュロ環礁随一の群れ、大物系ポイント、「アクアリューム」が存在する。癒し系サンゴポイントの多いマジュロにあっては、かなり特徴的なポイントだ。群れの代表格は何と言ってもギンガメアジ。渦を巻くというよりは、集団で一直線に水中を激しく動く銀の壁。一気に通過するギンガメアジを目で追い続けると、目がくらくらしてしまう。他にもバラクーダ、インドオキアジ、ツムブリなどの群れが見れる他、マダラトビエイ、グレーリーフシャーク、イソマグロなどの大物が定番。時にはヒメイトマキエイの小さな群れやマンタとの遭遇のチャンスもある。

母親の羊水のような優しさを持つ海 マーシャル諸島

www.web-lue.com

Web-lue 2005. Summer

Information Link <http://www.wtp.co.jp/renewal/majuro/index.htm> click! 情報HPへジャンプ

マジュロからダイビングボートで約1時間。広々とした外洋を横切り、たどり着くのが究極の透明度と、マーシャル随一と言われるサンゴポイントを持つアルノ環礁。人口はマジュロの10分の1の3,000人。そのほとんどが環礁の南東側にある島に住んでいる。メインのダイビングポイントは、ほとんど環礁西側のリーフの外洋に点在する。アルノアルノポイントの透明度は時に50mを優に超える超癒し系の砂地ポイントだ。真っ白な砂地にサンゴの根が点在し、そのサンゴの上にパープルビューティーやバートレットアンティアスが乱舞して彩りを添えている。

水深30mまでスロープ状に続く砂地を下っていても、そこがすでに30mだということを実感できないくらい明るいから、ついつい深く潜り過ぎてしまう。その水深には、マーシャルでは、今や深場の定番アイドルとなっているマルチカラーエンジェルフィッシュの姿を頻繁に目にすることができる。

この環礁の一番北には、ノースポイントと呼ばれる究極のサンゴポイントがある。デイトリップだと2時間近くかかるため、年間を通じて、海の穏やかなベストシーズンに数回しか行けないため、サンゴが荒らされてしまうことも少ない。



ジンベエなどの大物との遭遇も期待したい



深場のアイドル、マルチカラーエンジェルフィッシュの個体数も多い

Marshall islands **ARNO Atoll**

50mを超える透明度と究極のサンゴポイント アルノ環礁

マジュロからの移動途中には、定住性のハシナギイルカの群れの他、オキゴンドウ、ジンベエザメなんかに遭遇した事もある。去年はシャチの群れが出現し、話題になった。

（右）外洋端の人気者、フレイムエンジェルフィッシュ（黄色）
コナネヤッコの幼魚は浅場のサンゴの中で見つけられる（左）



アルノアルノのホワイトサンドポイントは、透明度50mを超える

母親の羊水のような優しさを持つ海 **マーシャル諸島**

ミリ環礁はマジュロ環礁から南東へ約100km、クルーズ船で約10時間の距離にある。アルノよりもさらに人口の少ない、自然の残る環礁だ。海の透明度はさらに上がり、いったいどこまで見えてしまうのかと不安になる程だ。この環礁で見つけたある島の風景は、今まで見たどの海よりも美しいと感じた。「ここは、まさに天国だな」。僕はその風景を眼前にしたとき、そうつぶやいていた。今だにあのシーンを超える瞬間に出会った事がない。おそらく、写真では充分にその美しさを表現できることは一生ないだろう。しかし、できることならもう一度巡り会いたいと思う。

この環礁のさらに南に隣接するように小さな環礁

がある。ノックスアトールと名付けられたこの小さな環礁は、フィッシャーマンの間では、伝説的に語られる場所だ。環礁の周囲に、魚影の濃いポイントが点在しているという。未だ見ぬその伝説の環礁に、今秋、ダイビングクルーズ船が向かう。今までに行われたミリ環礁クルーズでは、マーシャル未記載種の魚が多く発見されている。

自分自身、まだまともにダイビングをしたことが無いこの環礁で、いったいどんな生物に遭遇できるのか、参加者からのクルーズ報告を聞くのが、今から楽しみではない。



広い環礁内ではイルカたちと遭遇することもある
(左)ミリ環礁に夕日が沈み、美しい夕焼け空を見
せてくれた色

Marshall islands MILI Atoll

ここはまるで天国のような場所
ミリ環礁

マジュロから来ると、ミリ環礁への入り口となるチャネルにある美しい島の風景



チャネルには、今まで見たこともないようなイソバナ煙が広がっていた

母親の羊水のような優しさを持つ海 マーシャル諸島

www.web-lue.com

Web-lue 2005. Summer

 Information Link <http://www.wtp.co.jp/renewal/majuro/index.htm>  情報HPへジャンプ

©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

クルーズトリップで潜る マーシャルの魅力

今回紹介した3環礁を船で巡るダイブトリップが、海のコンディションが穏やかな秋のシーズン限定で開催される。メインのマジュロ環礁、アルノ環礁をダイビングクルーズで潜りまくるか、はたまた未開の海、ミリ環礁の冒険クルーズにチャレンジするかは好み次第。そして、マーシャルの海に精通した水中写真家、

越智隆治のフォトツアークルーズも開催される。毎クルーズ違った企画、テーマを用意しているのは、MDA(マーシャルズダイブアドベンチャーズ)のオーナーガイド、吉居サトシ氏のアイデア。期間限定でもあるし、同じパターンで潜るよりは、ゲストに選択する楽しみも与えてくれる。



マジュロ環礁内に停泊しているオレアンダ号、向こうにはマーシャルアイランドリゾートが見える



MDAのオーナーガイドの島さんとスタッフのウォルシー

Marshall Islands
**Cruise
Guide**

クルーズインフォメーション

第1回:ミリ環礁遠征クルーズ

(2005年9月26日~9月30日)、最大14ダイブ。
日本発着8日間(9月25日発~10月2日着)

手つかずの自然が残るミリ環礁へ。そして、前人未到のノックス環礁での開拓ダイビングなど、アドベンチャラスなダイビングが楽しめるスペシャルダイブクルーズ。オーソドックスな人気ポイントに潜るクルーズよりも、冒険心旺盛なダイバーにお勧め。あなたも未開の海の開拓者の一員になれる。

第2回:越智隆治フォトクルーズ

(2005年10月3日~10月7日)
日本発着8日間(10月2日発~10月9日着)

マーシャル諸島政府観光局のオフィシャルフォトグラファーでもある越智隆治が同行するフォトツアー。昨年(2004年)は、リゾートステイのみで開催し、参加者に好評だったフォトツアー。今年(2005年)は、フォトツアークルーズとリゾートステイのフォトツアーの2パターンの開催が決定している。

フォトツアークルーズでは、その日の天候によって、この特集の写真の中で見られるような島に上陸して風景写真を撮影したり、ビーチでサンゴや砂地と島との半水面撮影をしたりと、通常のダイブクルーズのように、定番のダイビングポイントに潜るだけでなく、マジュロとアルノの陸上の自然もゆっくりと撮影しようという贅沢なクルーズトリップ。撮影コンディションによって

クルーズ船の向かう先も気の向くまま。もしその日潜ったポイントでもっとゆっくり撮影したいというリクエストがあれば、ログ付けの時に船上でゲストと相談しながら潜るポイントを選択して、翌日も同じ場所でじっくり撮影なんて事もありえるかも。

普通のダイビングよりのんびりできるというので、写真を撮らない人も参加した事があり、普通皆が想像するような、フォトツアーとはちょっと趣の違うフォトクルーズになるはずだ。

第3回:マジュロ、アルノ環礁ショートクルーズ

(2005年10月8日~10月10日)最大10ダイブ。
日本発着7日間(10月6日発~10月12日着)

第4回:マジュロ、アルノ環礁クルーズ

(2005年10月11日~10月14日)、最大14ダイブ。
日本発着8日間(10月9日発~10月16日着)

マジュロ環礁発の定番クルーズ。マーシャルビギナーからリピーターまで、幅広くマーシャルのダイビングの魅力が楽しめる。ショートクルーズ乗船3泊4日(第3回)、4泊5日(第4回)の2パターンを企画。まるまる同じコースにはならないが、昨年の乗船記を参考にしてもらえれば、どのようなコースを巡るかがたい理解してもらえはずだ。今回は、最終日の2ダイブはクルーズ船から下船後、ホテルにチェックインしてから通常のダイビングポートを利用して潜るスタイルを取る予定。

母親の羊水のような優しさを持つ海 **マーシャル諸島**

昨年(2004年)度のマジュロ、アルノ環礁クルーズ乗船記(4泊5日編)

まずはマジュロの定番ポイントからスタート

昨年(2004年)10月に開催された、マジュロ環礁、アルノ環礁の主要ポイントを着る、4泊5日と3泊4日のダイビングクルーズトリップに乗船した。チャーターしたのは、現在マーシャルで唯一のダイビングクルーズ船、ロンゲラップエクスペディション社所有のオリエンダ号。築年数は今年で32年とかなり古いが、全長42m、部屋数X部屋、レストラン兼リビングも広々としていて快適だ。6人以上集まれば、チャータークルーズも可能だという。



環礁には、いくつもの小さな島が点在している



サンゴも元気で美しい



アルノ環礁内の無人島でランチ



クルーズ船のサンデッキでくつろぐ

4泊5日のクルーズには、僕を含む日本人ダイバー9名と、ハワイから来たハネムーンカップルの計11名が乗船。初日は飛行機が夜に到着するので、船に乗船し、ブリーフィングを受けて就寝。2日目となる翌早朝、マジュロ環礁唯一の大型船用の外洋へのチャンネルがあるカロリン島へ移動した。

天気も上々、この島の周辺にあるダイブポイントで4ダイブした。1本目は、マジュロ環礁内で今一番サンゴが綺麗と言われている「カロリンリーフ」。チェックダイブも兼ねて、のんびりと浅いサンゴの上を浮遊す

るリラックスダイビングを楽しんだ。

2本目は外洋ヘドリフトダイビング。3本目は、ギンゲーム、バラクーダなどの群れ系ポイント、「アカリューム」へ。中潮で、カレントも無く、群れの集まり具合が心配されたが、まあまあ群れ具合だった。ここで群れを見るのなら、できれば大潮周りの方が流れがあって、群れがまとまっている可能性が高い。

4本目は、ゲストの「是非ともアカテンコバンハゼが見たい」というリクエストに答えて、環礁内の「ヘブン

ズヒル」というポイントへ。今まで、様々な海でアカテンコバンハゼを見せてもらったが、サンゴのエダの間隔が広いせいか、ここの個体はかなり撮影しやすい。以前僕が撮影した写真を見て、このハゼだけを撮影しにマジュロを訪れたフォト派ダイバーもいるくらいだ。できれば、今年のクルーズでも、あのアカテンコバンハゼが同じ場所に来てくれればいいのだが。

4本のダイビングポイントはカロリン島を起点としているため、この日一日中母船は同じ場所に停泊して、ダイビングボートで各ポイントへ潜りに行った。

いよいよアルノ環礁へ

3日目の日の出前、今度はチャンネルを抜けて外洋に出て隣のアルノ環礁へ。皆がまだ起きる前の朝6時には目的のポイントに到着。天気は曇りがちだったが、1本目のエントリーの頃には青空が広がり始めていた。アルノで一番人気の外洋砂地ポイント「アルノアルノ」。透明度は優に50mを超える。眩いばかりの砂地には、大小様々なサンゴの根が点在し、その上をバートレットアンティアス、パープルビューティーが乱舞している情景をぼーっと眺めているだけでも飽きない。砂地のスロープにできる見事な砂紋にも、撮影意欲をそそられる。

透明度が高いので、遠くからでもダイバーがのんびりダイビングを楽しんでいるのが伺える。周囲の状況が難なく把握できるというだけで、初めて着る海でも

まったくストレスを感じずにリラックスできるというのは嬉しい。

2本目、3本目は開拓ダイビングを敢行。ダイビングショップの少ないマジュロ、アルノでは、まだまだ未知、未開のポイントが山ほど残っている。母船からダイビングボートに乗り換えて、満潮時でさえ小さなボートしか入れないダイナマイトパスを通過してアルノ環礁内部へ。いくつかの隠れ根をチェックしたが、あまり良いポイントが見つからず、結局入口から反対側の

環礁沿いにある島の前のリーフでダイビング。サンゴは何の理由によるのか、死んでしまっているものが多かった。同じマーシャル、しかも隣同士の環礁でも、これほどサンゴの状況が違うものかと驚かされた。しかし、砂地と、マジュロ環礁よりも透明度の高い、浅い海中で、皆うたた寝をするようなのんびりダイビングを楽しんだ。僕はこのとき、サーフパンツにBC、レギュを装着という軽装でダイビングしていた。60分ほど潜っていたが、まったく寒さを感じないくらい暖かい。

ダイビング終了後、無人島に上陸してランチを食べる。浅い砂地と砂州が広がって、幻想的な風景を作り上げている。人工物がほとんど無いマーシャルの島々の風景は、南の島の原風景をイメージさせてくれる。できれば水中だけでなく、陸の上のそんなシーンも写真におさめる事をおすすめしたい。

3本目はダイナマイトパスを抜けた外洋の目の前を潜る事に。ヘルフリッチャやマルチカラーエンジェルフィッシュなどなど、深場のアイドル系フィッシュたちをかなりの個体数発見。しかし、この周辺で目撃することの多いハシナギルカとの遭遇を期待したが、見当たらなかった。

4本目はアルノ環礁の群れ系ポイント、「イリアム」。エントリー時間は午後4時。夕方で、捕食活動に入っている魚たちも多く、特に突然現れた捕食中のツムブリの群れに巻かれた時が迫力ものだった。群れを撮影しながら、その向こうにジンベエがいるのではと期待してしまっ、デジカメでなく、スチールカメラを使っている僕は、なかなかシャッターを切れずにいた。

ダイビング後は、ログ付けしたり、ビールを飲んだりして談笑したりして、疲れた頃に就寝。船は次の目的地、アルノノースエリアへと向かった。

Marshall Islands Cruise Guide

アルノアルノに差し込む太陽の光

ノースポイントから、マジュロ環礁へ

4日目、風が強く、うねりがあり、環礁の中に入れないオリエンダ号は、就寝中も揺れを感じていた。起きてからも、空には雲がかかり、風もあった。それでもデイトリップで1年に数回しか来ることのできない「ノースポイント」。サンゴの美しさ、透明度は、マジュロ、アルノのポイントとしては、ナンバーワン。できればコンディションの良い状態で潜りたかった。

ここで2本のダイビングを楽しんだ後、アルノのマクロポイントでヘルフリッチやアオマスク、マルチカラーエンジェルフィッシュ、ヨコシマニセモチノウオ、ダイヤモンドテールラスなど、深場のアイドルフィッシュを堪能した。この頃には、朝の風と波がウソであったかのように、水面はベタナギになっていた。

この日のラストダイブは「アルノドックサウス」。サンゴのスロープと砂地が交互にある美しいポイント。ここでは、マーシャルの固有種、ガードルドラスの婚姻色を初めて目撃した。フィッシュウォッチングもかなり楽しめるし、外洋のドロップオフをドリフトする事もできる。4本目終了と同時にマジュロ環礁へ移動を開始、暗くなり、環礁に沿って、細長く光る、マジュロの町の明かりを左手に見ながら、環礁内のカロリン島前のリーフへ。

5日目、前半のクルーズ最終日には、群れ系ポイント、「アクアリューム」と環礁内の癒し系サンゴポイント、「No2」に。計14ダイブを終了して、午後2時には宿泊するホテル前に到着した。



昨年、クルーズに参加したゲストとクルーの面々



これがオリアンダ号の外観(左上) 食事は、トングランシェフが担当している(左)

ロングラップエクスペディションズのオリアンダ号

クルーズで使用されるのは、ロングラップエクスペディションズのオリアンダ号。全長40m、全幅12m、巡航速度約12ノット。

携帯電話、船舶無線装備。乗客定員20名。電圧:220/240V、50hz24V DC、プラグ:3ツ股ピン

*これ以外にダイニングに110Vで日本の電化製品がチャージ可能なプラグ有。船室:エアコン、温水シャワー、&トイレ付き×10室。施設:レストラン、バー、サンデッキ

2005年7月、マジュロに待望のエコリゾートアイランド誕生!!

現在、マジュロ環礁の無人島に、MDAが究極のエコリゾートを建設中だ。リゾートの名前はセレンディッパァーアイランドリゾートに決定。2005年7月1日オープンを目標にリゾート建設が行われている。

ヤシの木以外何も無い、島の周囲僅か285 mという小さな島には、ゲスト宿泊用の大きなコテージが一棟だけ。リゾート施設は、太陽光発電によりもたらされる自然エネルギーが電力となってもたらされ、省エネタイプのクーラーや冷蔵庫といった、家電製品が使え。雨水が紫外線殺菌洗浄器で飲料水になる。太陽熱温水器からの温水シャワーも浴びられる。バイオトイレのバクテリアによ

り流された糞尿は分解され、無害な肥料となって島の緑化に役立てられるなど、南の島の無人島にありながら、快適な未来型南の楽園生活を実現してくれる。

この島には、写真のように1棟のコテージしか建設されない。つまり、他に宿泊客がいないため、ゲストはこの島の「酋長」としてのリゾートライフを楽しむ事ができるのだ。リゾート滞在中は、ダイビングボートもガイドも専属でついて、自分のペースでゆっくり潜る事もできるというのも嬉しい。まさにマーシャル初、究極のプライベートエコリゾートアイランドの誕生だ。

<http://www.majuro.jp> [Link!](#)

Topic!

越智隆治編集の マーシャルだけのウェブマガジン 「EMMAN DIVE vol.1」発刊

年1回発刊(アップロード)されるマーシャルだけのウェブマガジン「EMMAN DIVE」が以下のアドレスからダウンロードできる。総ページ数20ページとボリューム満点。実はWEB-LUE創刊の原点はこのウェブマガジンにあった。

<http://www.e-mit.net/> [Link!](#)



バンガローのリビング。この電致は、すべて自然エネルギーで供給されている。



島の中には縁側のようなものもあり、日陰で海を感じる事ができる。

Information Link 情報HPへジャンプ

<http://www.wtp.co.jp/renewal/webcampaign/majuro-05.htm>

<http://www.wtp.co.jp/renewal/majuro/access/index.htm>

<http://www.e-mit.net/traveler.html>

母親の羊水のような優しさを持つ海 **マーシャル諸島**